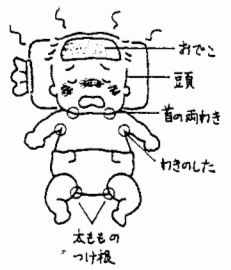




小児の解熱剤について



基本的に解熱剤は、使用しすぎることによって病気が長引く可能性があり、当院では解熱剤の使用について以下のことを考えています。

- ① 小児の風邪、特にウイルス感染においては、熱が出ることによって体でウイルスを排除する力が働いているので、解熱剤で熱をむやみに下げない方が回復は早いのです。



- ② 熱に対しては冷やすことが大事です。太い血管がある頭～首、わき、ももの付け根を重点的に冷やしましょう。水分摂取の回数を増やし、部屋を加湿し、汗をかいたら着替え、ふるえのある時は逆に布団を掛けるなど、心がけましょう。

- ③ 熱が高くて食欲もなく、ハアハアとしんどそうな時は、解熱剤を使用して熱が少し下がったところで、ジュースなどの水分や、アイスクリーム、あめ、ゼリーなど食べられるものを食べさせてあげましょう。



- ④ 解熱剤は屯用で、1日1～2回、多くても1日3回まで、最低5～6時間あけて使用しましょう。



- ⑤ シロップ、粉の解熱剤を飲んで、熱がさがらないからと坐薬を使用すると、倍量の薬剤が体に入る可能性があり、中毒症状がでるので注意が必要です。

熱が高いから重症ではなく、また熱によって脳障害が起こることはないのです。